

対談 アメリカからアメリカを見る

作 家 米谷ふみ子さん

ジャーナリスト 矢部 武さん

2006.01.11 「しんぶん赤旗」 9頁

9・11テロ以後の状況

米谷 わが町で初めて反戦の声か

矢部 カルト・強盗集団の様相も

日本の政治をいびつにしているアメリカいいなり政治。アメリカべったりでいいのか、と多くの人が不安に思っています。そこで、『「見えない恐怖」におびえるアメリカ人』を著すなど、アメリカの現実を告発しているジャーナリストの矢部武さんと、アメリカ在住の作家・画家として『なんもかもわやですわ、アメリカはん』などを著し、発言を続けている米谷ふみ子さんに、現在のアメリカの状況、いまの日本はこれでいいのか、などについて語り合ってもらいました。

< 60～70年代のアメリカでは >

米谷 矢部さんは何年にアメリカにいらっしゃったの？ 矢部 一九七四年にヒッピーの町のバークレー（米西海岸、カリフォルニア州）にいきました。ニクソン大統領がちょうど辞任したときです。

米谷 ああ、あのころ。子どもが小さくて世話しながらテレビで見えました。

矢部 日本の大学で英語クラブに入っていて、英語をもうちょっとものにしたいと。あと、歌手のボブ・ディランにあこがれていたんですよ（笑い）。ストリートミュージシャンたちと友達になってニール・ヤングやジョン・バエズの歌をたくさん教えてもらいました。ヒッピー生活や放浪生活、それに不法移民とレストランで一緒に皿洗いしたり、いろいろ貴重な体験をしました。反戦、反体制、公民権運動、反人種差別への関心もそういうところがきっかけです。当時は、移民学校で英語を勉強しながら、二、三カ月、皿洗いのアルバイトするとムスタング（アメリカ車）を買えたのです。最低賃金もアメリカで知りました。いくら働いても車を買うのに苦労する日本企業のウソみたいなものも見えてきました。日本で就職しないで、アメリカへ行って本当によかったと思いました。

米谷 私は一九六〇年にアメリカへいきました。日本の絵かきの世界は自由かと思ったら、徒弟制度的でそのうえ男尊女卑、それでアメリカへ。ちょうど核兵器の空中実験が終わったころです。それまでは、アメリカへいきたいけど、空中核実験があるからいやだと思っていました。はじめにニューハンプシャー州に、そしてニューヨークへいきました。話のついでにだけど、ネバダ州でおこなわれた核実験の死の灰はどこへいったと思いますか。新聞に分布図が出たことがあって、見ると、ミシガン（米北東部の州）へ多く流れていったの。それで納得がいったのです。私のつれあい（夫の作家ジョシュ・グリーンフェルドさん＝米アカデミー賞脚本賞にノミネートされ、主演男優賞を受賞した映画「ハリーとトント」の脚本などで著名）のミシガン大学の友達は、皆がんになったのですよ。最近、私の住む町（ロサンゼルス郊外のパシフィック・パリセイズ）で、草の根反戦グループの仲間と劣化ウランの犠牲者を入れた原爆展を開いたりしています。

編集部 二〇〇一年の同時多発テロ、いわゆる9・11以後からイラク戦争にいたるアメリカの状況をどうごろんになっていますか。

矢部 極端に言えば、9・11以降のアメリカはほとんど強盗集団とカルト集団に乗っ取られている感じです。もともと、強くなければ、正しくなければという願望がアメリカ人には強いわけですが、野球などのスポーツ観戦や酒場などで、すぐ指を突き上げてナンバーワンだと強さを誇示する人が増えています。こういう人たちは、ブッシュ政権の恐怖をあおって国民をコントロールしようとする「恐怖政治」に簡単にだまされてしまうわけです。白人が多い集会にいくと排他性が強まっているように思います。肌の色の違う人たちに対して。アメリカは公民権運動で平等を広げてきたのですが、あきらかにおかしくなっている。もともとあったアメリカ人のいやな部分が強くなっていると思います。

<古いも若きもロウソク持ち>

米谷 たしかに9・11のあと、みんな硬直して、三カ月くらいおかしかったです。インドのシーク教徒がムスリムと間違われて殺された事件もありました。四カ月たってリラックスしてきて、レッド・ステーツ（ブッシュ政権与党の共和党支持者が多い州にちなむ呼び方）と違う人たちが今度はイラク反戦運動に集まってきた。私は反戦運動に参加してよかったと思います。そうでないと、いたたまれない感じで、町のなかでもだれと話していいのかわからないのね。二週間に一回集会を九十二歳の女性の家でしますが、反戦運動の人たちからは、いろんな情報がくるのよ。九十二歳から五十歳まで。よくしゃべる人もいますけれどね（笑い）。

矢部 私も反戦運動取材しました。二〇〇三年三月二十日にイラク戦争が始まる一週間前、サンフランシスコのシビックセンターに何千人も集まり、「もしも来週開戦したら、ここにいる人たちは、学校や仕事を休んで、その日の正午に集まってくれ」ということになったんです。すると、集まったんですよ、たくさんの方が。

米谷 私が住む人口二万七千人の小さな町は、レーガン（元米大統領）が住んでいたところなのね。いままで反戦運動なんてしたことがないの。それが約二百人もビジル（ブラカードやのぼりに自分の主張を表現し、一日中、街角に立つ行為）に集まった。前代未聞やわ。古いも若きも、ろうそくを持って。

矢部 そうですね。人種的にはどういう人たちですか。

米谷 白人とアジア系が多いですが、黒人やラティノ（中南米系の人々）などマイノリティー（少数民族）がたくさんきました。みんな一緒にビジルをしました。イラク戦争が始まったとき、マイノリティーは兵隊にとられました。

矢部 結局、イラク戦争で死ぬ人の多くは白人以外の人たちなんですよ。フィリピン系の移民したばかりの十九歳の青年は、家族が貧しくて、自分が兵隊にいけば、とりあえず大学を卒業できると…。病気のお母さんや兄弟を養っているという人が多いですよ。

米谷 私、全国向けテレビで毎晩、死んだ兵隊の顔を見るんですよ。ところが最近、白人が多いのに驚いています。

矢部 最近増えてきましたね。

米谷 アメリカ南部の人たちですか。

矢部 そうだと思います。ただ、カリフォルニアも白人の死者は多いです。

米谷 死者の年齢もだんだん上がっていて、二十七歳から三十五歳ぐらいまで。ほんとうにかわいそうです。

<劣化ウラン弾汚染の影響が>

矢部 貧困問題は、よくマイノリティーばかり強調されますが、白人にも広がっていますね。チェイニー（副大統領）が元CEO（最高経営責任者）をしていた会社の「ハリバートン」（イラク戦争でボロもうけた企業）の下請けで、アメリカ南部の白人が、イラクで亡くなったのです。「ハリバートン」は危険な仕事を自分のところでやらずに下請けにやらせるのです。亡くなった南部の白人の奥さんが記者会見でいっていました。「南部で仕事がなく、うちの夫は、やっとイラクの仕事にありつくと喜んだ。通常の三倍から五倍高い賃金なのでイラクへいった。それでこのありさま」ということでした。

米谷 イラクへいったら殺されることぐらいわからないかなあ。サマワの自衛隊も危ないと思いますね。

矢部 それと、私が心配しているのは戦場となったイラクで米軍が使った劣化ウラン弾による汚染です。自衛隊の人は、なぜ検査をやらないのでしょうか。

米谷 劣化ウランについてのビデオテープを私に送ってきたの。日本人のあるカメラマンがイラクヘガイガーカウンターをもってビデオ撮影したのね。道に落ちている葉きょうにあてたら、ジーッというの。それから、タンクの穴が開いたところにあてたら全部ジーッというの。道端の石にも。次に、自衛隊員に「あなたたちは、ここへきたとき、劣化ウランがあると聞きましたか」とカメラマンが聞いたら「聞きました」と。「（防護策を）何もしていないじゃないですか」と聞いたら、「マスクがここにある」とポケットから出して見せたんです。それで、その自衛隊員がマスクも何もしていないので、「あなた、マスクをかけずに、それでいいんですか」と。（つづく）

こめたに ふみこ = 1930年大阪府生まれ。作家・画家。関西女流美術賞受賞。1985年、『遠来の客』で文学界新人賞、『過越しの祭』で新潮新人賞、芥川賞受賞。98年、『ファミリー・ビジネス』で女流文学賞受賞。現在、米ロサンゼルス郊外在住。

やべ たけし = 1954年埼玉県生まれ。ジャーナリスト。米紙「ロサンゼルス・タイムズ」東京支局記者などをへてフリー。著書『人種差別の帝国』『アメリカ病』『少年犯罪と闘うアメリカ』『テロ後のアメリカ いま自由が崩壊する！』ほか多数。

対談 アメリカからアメリカを見る

作 家 米谷ふみ子さん

ジャーナリスト 矢部 武さん

劣化ウラン弾の影響

2006.01.12 「しんぶん赤旗」 9頁

矢部 清掃チームに多数の死者

米谷 帰還兵の子どもに障害も

矢部 九一年の湾岸戦争で、使用された劣化ウラン弾の調査と後片付けのため、米国防総省の百人くらいの清掃チームがクウェートとサウジアラビアへ入ったのです。その清掃チームのことが、アメリカの新聞じゃなくて、ニュージーランドの新聞に出ていました。

米谷 アメリカの新聞は、劣化ウラン弾の説明を全然書かないのね。捜してもみつからない。一回だけ「ロサンゼルス・タイムズ」にUCLA（カリフォルニア大学ロサンゼルス校）の先生が書いてだけです。

矢部 米国防総省の清掃チームの団長は、ちゃんとした防護服を要求したそうですが、ちゃちな防護服しか与えられなかった。それで、清掃チームのメンバーがいま、バタバタ死んでいて、十年後の二〇〇一年の時点で、百人中二十人が亡くなっているということでした。団長の医師も、かなりの健康障害を訴えていて、メンバーの多くが病気になるそうです。劣化ウラン弾を使ったことについては国防総省も認めざるをえなくなったのです。

米谷 湾岸戦争へいった兵隊で、子どもに障害が出ている人がたくさんいますでしょ。

矢部 はい、いっぱいいますね。

<十分な医療費出ない契約で>

米谷 それでもペンタゴン（米国防総省）は補償金を出さないのです。

矢部 とくに悲劇なのは、通常ならイラクへ送られないような予備役兵とか、州兵がどんどんイラクへいっています。契約と違うんですよ。傷ついたりしても、一時的に半年か一年くらいの医療費しか払わないような契約で、めちゃくちゃ悪いですよ。それが今大問題になっています。

米谷 通常の兵隊よりも条件は悪いわけ？ **矢部** はい。アルバイトと正社員ぐらいの違いがあるみたいです。ドイツの病院でイラク米兵を治療している医者も頭にきています。「この人たちの治療をつづけられない」と。国防総省からお金も全部は出ないし....。

米谷 大企業の「ハリバートン」が全部お金をとってしまうのよ。ハマー（ジープよりがっしりとした戦争用の車）は弾が当たっても大丈夫と宣伝していたが、そうではなく、そのうえ役に立たない防弾チョッキをイラクへもってきて、いっぱい殺されているのよ。米兵のお母さんたちは、もっといい防弾チョッキを自分で買って送ったりしています。食料も悪くて、士官だけいいもの食べている。C - S P A N（議会の中継や政治聴聞会をカットなしで報じる米国のケーブルテレビ）でも、米軍の女性がひどい状況を訴えたら、その女性はクビになったんです。

矢部 「ハリバートン」って、本当にひどい会社ですね。

<米国宗教界の右傾化ですね>

米谷 米ロサンゼルス郊外で草の根反戦運動にとりくむ私たちのグループ（平和のためのパリセイズ住民の会）に属する小児科医の人が、「図書館で反核集会をします」という案内ビラを、教会へもっていったのです。その教会にいる私たちのグループの仲間へ渡すために、他の教会員に「後ろに座れ」といわれて座っていたら、いきなりガーッとつかまれて、外へ放りだされたの。放り出したのは、私の家の向かいの住人で、在郷軍人会の幹部なの。

矢部 わあ。

米谷 私のつれあいのモットーは、反戦運動には、ブッシュ政権与党の共和党の人間もいれないとダメだ、共和党にも反戦の人はいるだろうというの。それで今度は、アメリカ独立記念日（七月四日）の夕方に、在郷軍人会にいったのです。例の在郷軍人の幹部と小児科医のおじさんを仲直りさせようとしたけど全然ダメ。牧師からは謝罪の手紙がきたけど、その牧師はクビになってしまった。イラク戦争が始まる前まで、とてもいい隣人だった人たちですが、あまりしゃべることができなくなりました。

矢部 その教会の派は？

米谷 メソジストです。

矢部 そんなに過激な人たちではないですよ。ブッシュ支持のポーンアゲイン（生まれ変わり）クリスチャンみたいになったのですか。アメリカ宗教界の右傾化ですね。

米谷 そう。私、宗教のことをいいだしたら、話はずきない（笑い）。パサデナ（カリフォルニア州）のメソジスト教会の牧師は、反戦、反ブッシュを唱えたために、政治活動をしたと税務署がきたのよ。

矢部 ほう。

米谷 教会は免税でしょ。それで、ブッシュの一味が税務署に脅させたのよ。南部の原理主義者の教会では中絶反対だとかブッシュに投票せよとか政治運動をしているくせに税務署はこない。

矢部 反戦運動なんかやったら、後で締め上げるぞというわけですか。

米谷 アメリカの政教分離なんてめちゃくちゃ。ひどいもんよ。

矢部 ほんとうに、いまのアメリカはカルト集団と強盗集団に乗っ取られてしまったということですね。

（つづく）

対談 アメリカからアメリカを見る

作 家 米谷ふみ子さん

ジャーナリスト 矢部 武さん

米大統領選後の状況

2006.01.13 「しんぶん赤旗」 9頁

矢部 献金企業が投票機を管理

米谷 マシンなぜ調べないの？

<バークレーを人民共和国と>

矢部 私は、カリフォルニア州バークレーを第二の故郷にっていて、バークレー人民共和国と呼んでいます（笑い）。バークレーは、アフガニスタン戦争に反対しましたし、アメリカでもリベラルなところ

です。イラク戦争に反対を貫くバーバラ・リー下院議員は、オークランド選出ですが、バークレーの隣町なのです。

米谷 そうね。彼女は「非国民」呼ばわりされていたけれど、最近のものすごく評判がいいのよ。

矢部 バークレーには反戦の雰囲気があるので、ワシントンにそういう雰囲気がなくても、反戦を貫ける。バークレーの市議会がアフガニスタン戦争に一番先に反対の決議をあげました。でも、そのバークレーでも、9・11後、市民が二つに割れてしまって、恐ろしい状況でした。九一年の湾岸戦争のときには、反戦で一つに固まったのですが、9・11の後はそのバークレーでも少しおかしくなってしまったと感じました。

米谷 それでも、また元に戻ってきたでしょう。

矢部 バークレーは戻ってきましたけど、アメリカ全体はダメですね。一昨年（二〇〇四年）の米大統領選挙の結果は何でしょうか（笑い）。

米谷 私、あれはマシン（タッチ式の電子投票機）のせいだと思うわ。選挙結果をものすごく操作している気がする。オハイオ州（米北東部の州。〇四年の大統領選挙で大接戦となる）の選挙結果が、いまだにはっきりわかっていない（笑い）。

矢部 マシンには、ブッシュの旧友たちが絡んでいますからね（オハイオ州に本社がある電子投票機メーカー「ダイボルド」社。共和党に多大な献金をし、マシン内部のプログラムを「企業秘密」にしている）。オハイオ州のある選挙区では投票総数が六百五十しかないのに、ブッシュに四千二百票も入りました（笑い）。私も絶対、マシンのせいだと思います。

米谷 どうしてアメリカの民主党はマシンを調べないの。それが不思議。私の反戦仲間がずーっと言っていたし、二年前に飛行機にのって日本からアメリカへ帰るときに読んだのですが、驚いたことに「デイリー・ヨミウリ」の中に挿入されていた「インディペンデント」紙にマシン問題をものすごく詳しく書いていたのよ。このことは本（『なんもかもわやですわ、アメリカはん』）に書きましたが。

矢部 私もマシン問題を日本の雑誌に載せようと取材したのですが、雑誌編集部の人から「大統領選挙の話題はもう古いですよ」といわれて、結局、本（『「見えない恐怖」におびえるアメリカ人』）に詳しく書きました。

<ブッシュ政権中枢の素顔は>

矢部 ブッシュがホワイトハウスでお祈りをしていることは有名ですが、それを聞いたキリスト教福音主義派（ブッシュ政権の支持基盤）の信者が、「いまのホワイトハウスにはゴッド（神）が住んでいる」と、まじめな顔でいっていますよ（笑い）。

米谷 チェイニー副大統領とラムズフェルド国防長官は宗教的にどうなのかしら。

矢部 この二人は三十年来の友人で、レーガン政権時代から二人で組んで悪いことをやっているわけですが、彼らは宗教的野心よりも権力的な野心が強いと思います。ネオコンと宗教が結婚している感じですね。

米谷 ブッシュ大統領の側近のカール・ローブ次席補佐官が、宗教を信じているように見せて票をもらえといっていたでしょう。彼は昔、テキサスで盗聴疑惑事件を起こした人物です。

矢部 一九八六年ですね。私もその事件を調べて本に書きましたが、本来なら、カール・ローブは盗聴疑惑で二十年前に刑務所へいっているべき人間ですね。

米谷 昨年三月、CBSイブニングニュースを降板したニュースキャスターのダン・ラザーは、ブッ

シユ大統領の徴兵逃れを指摘するメモが出てきたというねつ造報道の責任をとらされたわけだけど、あのメモはどこから出てきたのかしら？ 矢部 私はカール・ローブにはめられた可能性はかなり高いと思っています。恐ろしい人間ですよ。選挙に勝つためにはどんな汚い手も使うことで有名ですから。

米谷 ワシントン・ポストのボブ・ウッドワード（編集局次長）にも最近、CIA 工作員漏えい問題で疑惑がでてきてますでしょ。

矢部 あの人は、すごい仕事（ニクソン大統領を辞任に追い込んだウォーターゲート事件の調査報道）もしたけれど、最近の仕事をみると、ブッシュ政権中枢に近づきすぎていると思いますね。まるでブッシュ政権の報道官になってしまったのではないかと思うようなときがあります。

米谷 ウッドワードもオトリにされたのね。

(つづく)

対談 アメリカからアメリカを見る

作 家 米谷ふみ子さん

ジャーナリスト 矢部 武さん

米マスメディアの状況

2006.01.17 「しんぶん赤旗」 9頁

矢部 三大ネットが追及しない

米谷 新聞4ページ目にやっと

<シーハンさん 反戦に仲間も>

編集部 イラクで亡くなった米兵の母親、シンディ・シーハンさんが始めた反戦運動も昨年は大いに盛りあがりました。シーハンさんは、ブッシュが夏にすごすテキサスの牧場前などで反戦を訴えたのですね。

米谷 私は核兵器の恐ろしさを伝える展示で忙しかったのですが、私たちのグループの女性が、シンディ・シーハンさんのいるテキサスのキャンプへいったんです。そこで、彼女はキャンプにいる人々のために料理の手伝いをしたといっていました。ハリケーン・カトリーナがきたためにブッシュはシーハンさんと会うことをうまく逃れましたね。

編集部 ブッシュの支持率が最低になっています。イラク米兵の死者も二千人を超えました。

矢部 そうなんです。ブッシュの支持率は36%まで落ちました。

米谷 アメリカは三万人のイラク人が死んだだけだといっていますが、そんなんウソ。もっとたくさんの方が死んでいますよ。

矢部 米軍上層部は、イラク人の民間人が死のうが、アメリカ人の兵士、民間人が死のうが関係ない、劣化ウランも関係ないという態度です。

米谷 いま、米軍は、そこらじゅうの高校にまで出かけて兵士を募っています。うちのグループは、反対のピラを配りにいっていますが。

矢部 9・11 のとき、サウジアラビア人を国外へ逃がしたのもおかしいことです。ビンラディン一族から全部国外へ逃がして「FBI も手を出さな」はないでしょう。

米谷 どうして追及しないのかしら。

矢部 アメリカのテレビ三大ネットワーク(ABC,CBS,NBC)など主要メディアは全然ダメですね。個

人で追及している人はいるのですが、力のあるメディアが追及しないですから、知らないままなのです。アメリカでは、これまで五割くらいの人が冷静さをたもって、それでバランスをとってきたと思うのですが、さらに三割くらいの人がおかしくなって、それで八割に。その流れでイラクに大量破壊兵器なんかないのに、あるとあって戦争を始めたわけですね。

米谷 アメリカでも、デモに二十万人きてても、大きな新聞は写真も載せない。四割目くらいで、やっと記事が出ている。人数は半分に書いている。ほんとひどいよ。

編集部 日本も同じような状況ですね。

<危険訴えても予算削減が...>

矢部 もしかしたら、カール・ロープが日本の総選挙で、小泉を手伝ったのではないかと思うほどです(笑い)。

米谷 もちろん、入れ知恵している(笑い)。

矢部 アメリカでも、十秒コマーシャルで同じことを三回、五回繰り返すのです。

米谷 入れ知恵の伝書鳩をしていたのがアーミテージ前国務副長官です。いまの「憲法改定」にもかかわっているのではないのでしょうか。

矢部 パウエル前国務長官も、辞める二カ月前は、ほんとうにごう慢なことをいいましたね。日本は国連安保理に入るのなら、まず憲法改定してから入れといいました。

米谷 CBSのニュースキャスターのダン・ラザーが辞めさせられたのも、ブロガーから抗議のEメールがたくさんきたというものでしたが、あれも、でっちあげだと思わ。デモしたこともない人たちに共和党はお金を渡してデモさせてましたよ。

編集部 ハリケーン、カトリーナの被害についてはいかがですか。

矢部 ルイジアナ州選出の女性連邦議員がヘリコプターに乗りながら、泣いて訴えていました。「連邦政府に、ここは危ないと訴えてきたのに、だれもかまわなかった。それどころか、どんどん予算を削ってきた」と。途中で工事が終わってしまったのです。ニューオーリンズの人たちは、工事会社にお金も払えない。

米谷 あの工事も、チェイニー副大統領の「ハリバートン」でしょ。

矢部 戦争請負会社です。「ハリバートン」の元CEOが戦争のシナリオを書いて、戦争がおこったら、そらいけ、と。日本でも天下りがありますが、アメリカの天下りは、その比ではない。どんな省を取材しても天下りがあります。薬品会社、医療会社を検査する人が天下りですよ。

(つづく)

対談 アメリカからアメリカを見る

作 家 米谷ふみ子さん

ジャーナリスト 矢部 武さん

日米関係と世界の将来

2006.01.18 「しんぶん赤旗」 9頁

矢部 米中関係重視へシフトも

米谷 アジアと仲良くしなきゃ

<米国帰りの人物 世論の操作も...>

編集部 アメリカは、世界的にも孤立し、先制攻撃戦略も国連で否決されるなど、全体として孤立の道をすすんでいます。その一方で、軍事力一本やりでは対応できない状況に直面して、対中外交などに変化をみせています。

矢部 アメリカは三年後を見えていますね。有識者もブッシュは終わりだと見えています。ただ、大統領としての任期はあと三年あるので、アメリカ人は、その間我慢しなければならないですが。

米谷 世界中が我慢しなければならない。

編集部 アメリカから日本はどのように見えていますか。

米谷 アメリカで日本は存在していません。ただ、世界中さがしても仲間がいないじゃないかといわれたときに、ブッシュから「日本がいるやないか」といわれる、それだけのことです。改憲の動きについての記事も、一回ぐらい読んだことがあるくらい。

矢部 アメリカのメディアも有識者も最近では中国のことばかりいっています。昔から不思議に思っているのですが、日本は変に共和党を支持するのですよ。

米谷 そう。アメリカからすれば日本人は少数民族で、共和党からは良い扱いされないのに、何を思っているのかしら。

編集部 日本はグアムの海兵隊司令部の移転にもお金をだそうとしていますし、神奈川・座間への米軍司令部移転も容認しています。周辺自治体はみんな反対しています。横須賀にも原子力空母ジョージ・ワシントンを配備しようとしています。こうしたなか、親米の学者まで、こんな日米関係でいいのかと再考を迫っていますね。

矢部 アメリカにとって日本は同盟国ですが、対等のパートナーではないですから。ブッシュと小泉の友好関係も表面的なもので、日米関係の本質は何も変わっていないと思います。

編集部 去年の日本の総選挙では、自民党選挙戦略の中心に座ったのが、アメリカ帰りの国会議員でした。候補者用の単純な演説、コメントなどを全部つくって繰り返させました。スポーツ新聞の記者やプロガー(ブログを書く人)を集めてレクチャーし、世論操作もしています。

矢部 そうですね。アメリカと似てますよ。

米谷 ほんとに同じよ。アメリカのコメディ・セントラル(お笑い専門のケーブル局)で、ジョン・スチュアートというコメディアンが司会を務める「ザ・デーリー・ショー」というテレビ番組があるの。その日のトピックとして、ライス国務長官、ラムズフェルド国防長官やチェイニー副大統領が同じフレーズをいっているのが画面にざっと並ぶのです。ブッシュ政権内で、だれかが宣伝文句を指示して皆にしゃべらせているのが一目りょう然(笑い)。

矢部 コメディアンビル・マーが司会をする政治風刺番組も、夜中に見るとガハハと大笑いしてしまいます(笑い)。でも、イラク戦争報道で「ニューヨーク・タイムズ」は、とんとダメでしたね。

米谷 そうよ。「ニューヨーク・タイムズ」のジュディス・ミラー記者の果たした役割はひどいわ。ブッシュをもちあげて、大量破壊兵器が出てこないのに、あるという記事を書いた。「ニューヨーク・タイムズ」がバックアップして書いたので、ブッシュの国連演説も多くの人が信じてしまった。

矢部 最近、「ニューヨーク・タイムズ」は社員五百人を解雇したそうです。それでも経営はよくないみたいです。あんな記事を書かせては、本来の読者を失いますよね。

<「なぜ靖国に？」韓国人に聞かれ>

米谷 やっぱり、ノーということをはっきりいわんとダメですね。小泉首相みたいにブッシュにヘラヘラついていたら、BSEに感染した牛を買わされる。憲法九条を変えたら、軍需産業が栄えますよ。アメリカは日本に兵器を買わせようと思って。皆の税金でね。そういうことをするとアメリカのように福祉費、教育費が削られます。この狭い国に原子力空母がきて、ミサイルも売りつけられる。ミサイルに核弾頭をつけることになるかもしれない。このままでは将来真っ暗。小泉首相だけがアジアと仲良くしていないでしょ。私が日本へくるとき、隣の席に韓国人の投資家がいたんです。その人が「小泉はなぜ靖国に行くのか」と聞いてきたので「私も疑問に思う。海外に住んでいる日本人は、小泉の靖国参拝に賛成していないよ」と答えました。外から日本をみていると、いまのままでは、ほんとうに危ない。

アジアと仲良くしていかなければ、狭いところで、けんかして孤立したら、えらいことになると思います。

矢部 いま新しい本のテーマで米中関係について取材しているのですが、アメリカで中国の脅威を唱える人の多くは、台湾ロビイストの影響を強く受けていることがわかります。とくにブッシュ政権にはそのような人が多く、例えば、ウルフォウィッツ元国防副長官(現・世界銀行総裁)は、昔、台湾関係の活動にかかわっていたそうです。

米谷 そうなの。

矢部 ただ、アメリカには良好な米中関係を重視する人も多いですから、それが日本との大きな違いです。小泉首相の靖国参拝がエスカレートして、中国の人たちの我優の限界を超えないことを願っています。アメリカの中国専門家は「中国人のアメリカにたいするまなざしは、愛と憎しみだが、日本にたいしてそういうことは全然ない、憎しみだけだ」といいます。ブッシュ政権と考えを異にする有識者は、どっちかというところ、中国の主張を理解し、それに同情的な人が多いです。中国は東南アジア、中南米の国々とも仲良くしています。アメリカは将来的に日米関係よりも中国との関係を重視していく可能性がありますね。日本人はいつ目をさますのでしょうか。アメリカがもたらす二次情報をもとに外交政策をくみだてると大変なことになります。

編集部 きょうはどうもありがとうございました。
(おわり)